



# 令和4年度 教育課程研究協議会

平成4年7月11日(月)中学校理科

## キーワードの整理

資質・能力

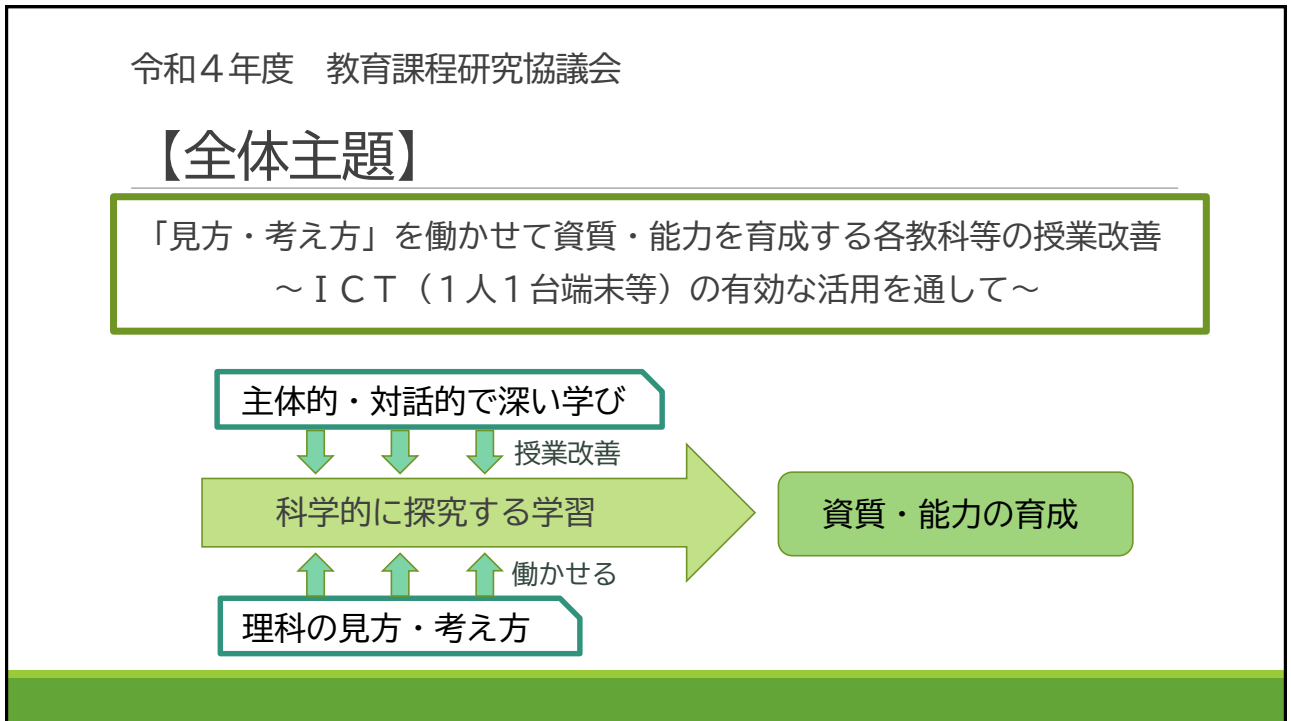
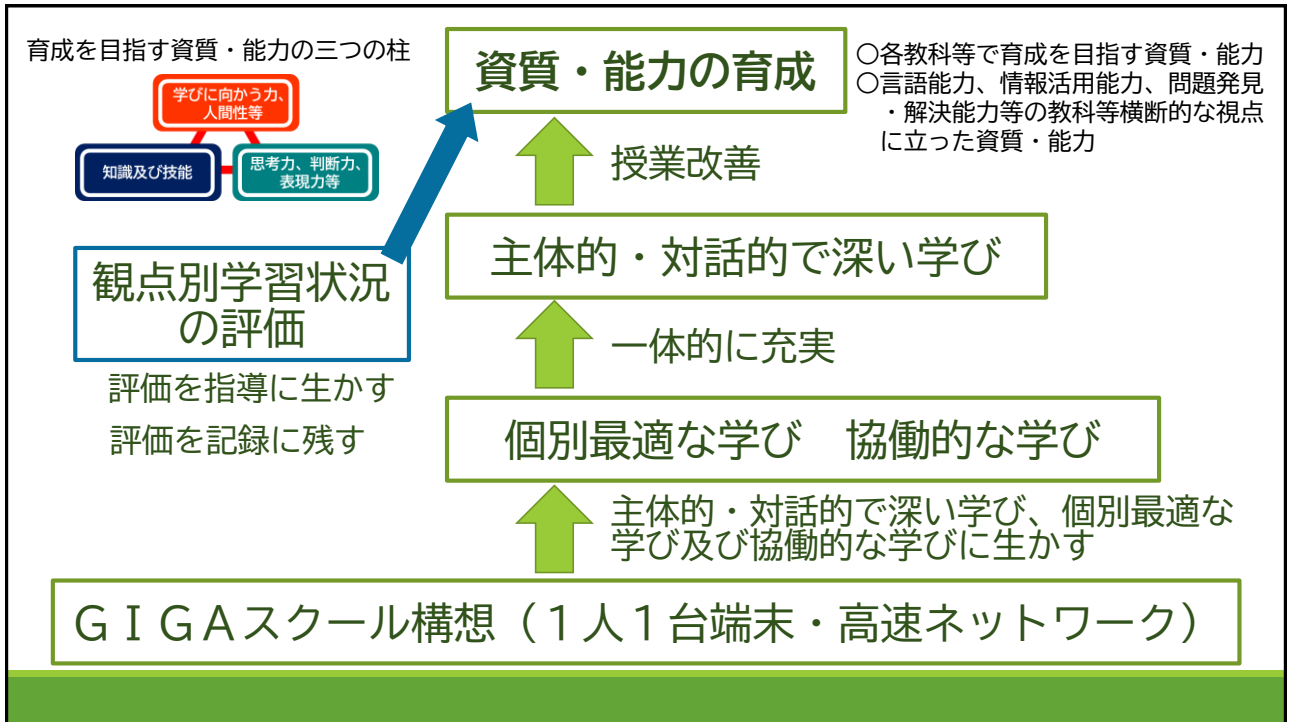
主体的・対話的で深い学び

観点別学習状況の評価

個別最適な学び と 協働的な学び

G I G Aスクール構想

1人1台端末



## 資質・能力の育成

### <資質・能力の三つの柱>



三つの柱	育成を目指す資質・能力 (参考: 解説P20、23~24他)
知識及び技能	◎自然の事物・現象に対する <b>概念や原理・法則の理解</b> ◎科学的に探究するために必要な <b>観察、実験などに関する基本的な技能</b>
思考力、判断力、表現力等	◎ <b>科学的に探究する力</b> (※) ○自然の事物・現象の中に問題を見いだす力 ○見通しをもって観察、実験などを行う力 ○得られた結果を分析して解釈する力
学びに向かう力、人間性等	◎ <b>科学的に探究しようとする態度</b> ○生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度 ○自然を敬い、自然事象に進んで関わる態度 ○粘り強く挑戦する態度 ○日常生活との関連、科学の面白さや有用性の気付き ○科学的な根拠に基づき判断する態度

(※) 主に重視する探究の学習過程(活動)の例

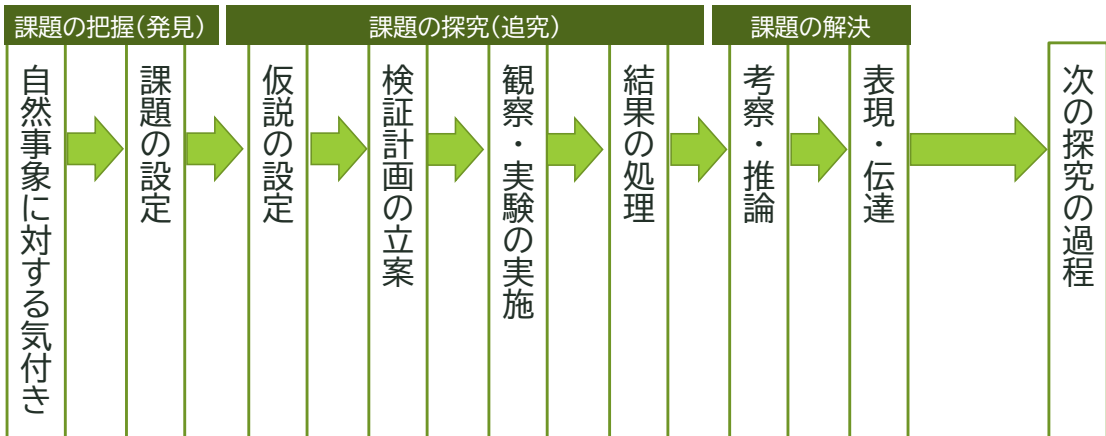
【第1学年】自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす活動

【第2学年】解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動

【第3学年】探究の過程を振り返る活動

## 科学的に探究する学習

参考: 解説 P. 9



## 理科の見方・考え方

参考:解説 P. 11~12

### 理科の見方

～で自然の事物・現象を捉える

量的・関係的な視点 (エネルギー領域)

質的・実体的な視点 (粒子領域)

共通性・多様性の視点 (生命領域)

時間的・空間的な視点 (地球領域)

原因と結果の視点

部分と全体の視点

定性と定量の視点

### 理科の考え方

～を用いて考える

比較する

関係付ける

条件を制御する

多面的に考える

### 課題の把握(発見)

自然事象に対する気付き

課題の設定

仮説の設定

検証計画の立案

観察・実験の実施

結果の処理

考察・推論

表現・伝達

次の探究の過程

働かせる

理科の見方

理科の考え方

理科の見方

理科の考え方

理科の見方

理科の考え方

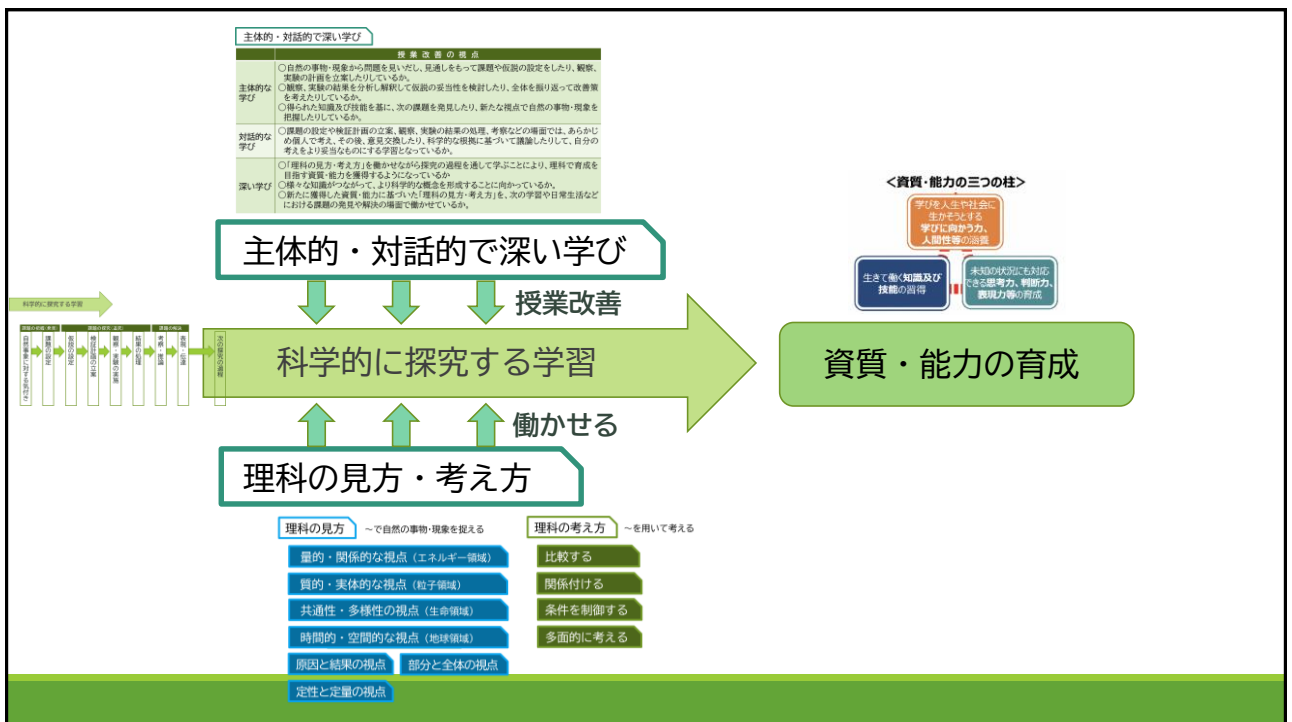
理科の見方

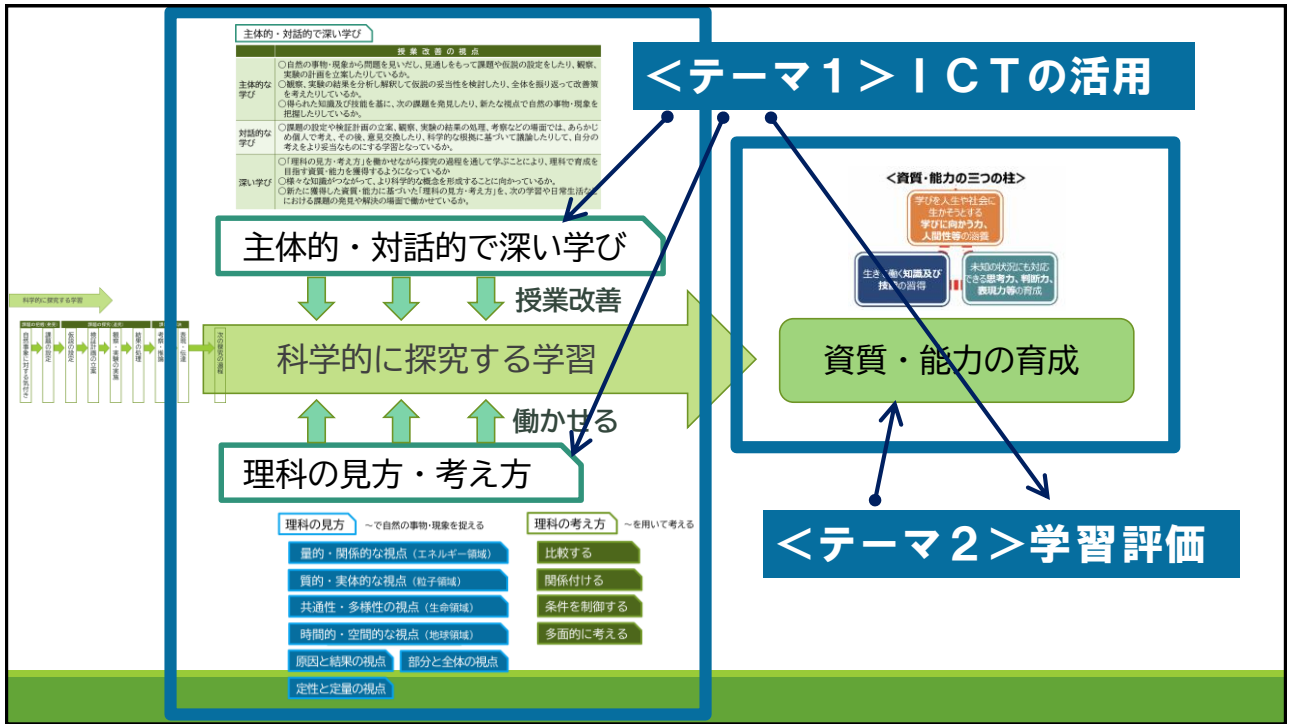
理科の考え方

# 主体的・対話的で深い学び

参考:解説 P.114~115

授業改善の視点	
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定をしたり、観察、実験の計画を立案したりしているか。</li> <li>○観察、実験の結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりしているか。</li> <li>○得られた知識及び技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりしているか。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察などの場面では、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「理科の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか</li> <li>○様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか。</li> <li>○新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける課題の発見や解決の場面で働かせているか。</li> </ul>





## 本日の内容

### 1 全体会

- (1) 中学校学習指導要領 総則について
- (2) ICTの活用について
  - ・協働学習支援ツール
  - ・1人1台端末の活用
- (3) 学習評価について

### 2 地区別協議会

